



あおり社会福祉士会だより 第60号

会の花 カキツバタ 花言葉「幸せは必ず来る」

だれもがとり残されない地域を

～みらいねっと弘前の取り組み～

中南支部 鹿内 葵

(一般社団法人みらいねっと弘前代表理事)

一般社団法人みらいねっと弘前は、子どもの貧困、食生活の乱れ、環境問題、エネルギー問題等に対し、生きていくうえで必要な環境を地域で実現する仕組みづくりを目的に、令和2年4月に設立しました。現在次のような取り組みを行っています。

(1) こどもの居場所ネットワーク事業

ネットワーク会議の開催、研修会の開催、こども食堂の運営サポート、立ち上げ支援等

(2) こども農業部

農業体験を通じて、こどもたちが食べること、生き方を学ぶ

(3) フードバンク事業

地域の個人・団体から食料を集め、必要なご家庭に提供する

(4) 支援対象児童等見守り強化事業

子ども・家庭の社会的孤立を未然に防ぐため、配食、学習支援、相談支援を通じて、家庭支援をおこなう

(5) 地域エネルギー部

再生可能エネルギーの普及やエネルギーの地産地消推進のため、「あおり県民でんき」と提携。電力料金の1%が、地域課題に取り組む活動に寄付される「地域応援プラン」を販売。

(6) その他事業

弘前おさがり会、お弁当宅配事業、フードパントリー事業など、地域の情勢をみながら必要なイベントを実施。

これまでも、NPO法人「スポネット弘前」、一般社団法人「権利擁護あおい森ねっと」を立ち上げ、様々な取り組みやソーシャルアクションをおこなってきました。すべての活動は、自分自身「社会福祉士」として活動しているつもりです。

複雑化する地域課題を解決していくためには、スポーツ、子育て、農業、エネルギー等、色々な角度からの取り組みも必要だと思っています。

「地域共生社会」は、制度・分野の『縦割り』や支え手・受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源がつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会だと思っています。

今後も様々な分野の方とネットワークをつくり、地域に貢献できる取り組みを皆さんと一緒にしていきたいと思っています。

コロナ禍で急遽始めた弁当宅配



西北五支部研修会「みらいねっと弘前の取り組み」

1月25日「一般社団法人みらいねっと弘前」代表の鹿内葵氏を講師にオンラインで研修会を開催し、会員10名が参加しました。鹿内氏から、地域に根差した様々な活動について説明して頂きました。

参加者から「興味深い取り組みが多く、自分の地域でも何が出来るかを考えたい」「相談支援を伴って支援活動を行っていくことの必要性を感じた」等の感想がありました。

コロナ禍の中、人との繋がり的重要性、助け合い支え合う地域の仕組みづくりが必要だと感じられました。

(西北五支部副支部長 川村沙織)

本会の定款変更が承認されました

～本会初の臨時総会～

令和3年11月14日定款変更についての臨時総会がアピオあおもりで開催されました。

コロナ禍の中、会場の出席者は理事9名でしたが、書面評決と委任状提出により総会は成立し、以下の3点について定款の関係条文の変更が、承認されました。

①成年被後見人の権利の制限の適正化に関する法律の施行に伴い、社会福祉士の結核事由が見直されたため、定款の会員資格の喪失事由のうち

「後見開始又は保佐開始の審判を受けたとき」を、「心身の故障により社会福祉士の業務を適切に行うことができない者として厚生労働省令で定めるものに該当したとき」に変更すること。

②会長を補佐する者として副会長を置くこと。

③総会を開催しやすく、会員が議案への表決を行いやすくする手段として、電子メール等の電磁的方法を取り入れること。 (事務局)



日本社会福祉士会からの情報

第二期成年後見制度利用促進基本計画（案）が公表されました！

政府が定めた第1期計画が令和3年度末で終了するため、令和4年度から5年間の第2期計画の策定が進められ、本年1月に公表されました。3月には閣議決定される見込みです。日本社会福祉士会は、成年後見制度利用促進専門家会議に参画したほか、パブリックコメントにより意見を提出しています。

計画案では、基本的考え方として「地域共生社会の実現に向けた権利擁護支援」や「成年後見制度の運用改善等」が示されました。

施策として、①「成年後見制度の見直しに向けた検討」、②「総合的な権利擁護支援策の充実」（意思決定支援、司法による権利擁護支援等）、③「成年後見制度の運用改善」（意思決定支援の浸透、適切な後見人等の選任・交代の推進、成年後見制度利用支援事業の推進、本人情報シートの活用推進）等を挙げています。

また、「権利擁護支援の地域連携ネットワーク

づくり」として、「包括的」（多様な分野・主体が参加）かつ「多層的」（市町村・圏域・県単位）なネットワークづくりを進めるとしています。ネットワークは「権利擁護支援チーム」（本人の関係者が日常的に対応するしくみ）、「協議会」（権利擁護支援チームを支援する関係機関・団体の協議の場）、「中核機関」（協議会の運営等の地域連携ネットワークのコーディネート）の3つのしくみからなり、専門職団体には協議会への積極的参加、ネットワークにおける相談対応、権利擁護支援チームの支援等を期待しています。

優先して取り組む事項として、市民後見人、法人後見、専門職後見人等の多様な担い手の確保・育成が挙げられ、専門職団体には、質の向上の取組に関する団体間の情報交換を行う等の連携強化、市民後見人養成研修修了者や当事者等の活躍を支える役割を意識した専門職の育成を期待しています。

(編集部)

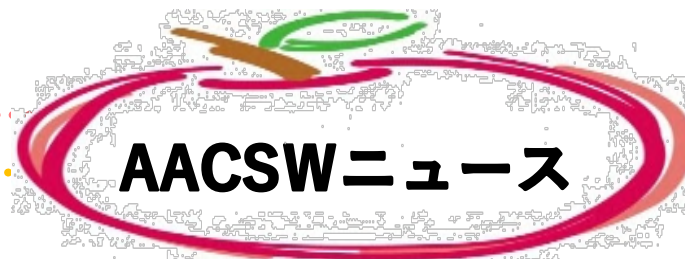


上十三支部

2月25日県立保健大学の石田賢哉教授より「対人援助職としての倫理～ソーシャルワーカーとしての立ち位置とは何？～」に関する公開講座をZoomにて行い、約40名もの参加がありました。

参加者からは、「先生の実体験を交えた講話に様々考えさせられた。」「理解が深まり、研修で学んだことを今後の利用者支援に活かしたい。」「自己を振り返る良い機会になった。」などの感想がありました。

今後も上十三支部では、会員の皆様の意見を聴きながらZoom研修等を開催し、また、日々の情報発信に努めていきます。



はあとなあ青森

フォローアップ研修開催！！

2月26日にオンラインで開催し、70名ほど参加しました。

会員から、死後事務と弁護士との連携が必要な場合の事例報告を受け、グループで討議しました。フランクなやり取りを通して、情報共有、会員同士の交流、思いの吐き出し等々をしてほしいとのねらいがありました。

皆さん、入退室やブレイクアウトルームでの意見交換もスムーズ、リアクションボタンもお手の物。オンライン研修が根付いていると確信しました。

『社会福祉士の質の担保』後見活動に当たり前に必要なことで、フォローアップ研修の目的の一つです。困りごと、不安なこと、分からないこと等々、会員同士の力で補い合って、専門職たる質を保っていきましょう。

(はあとなあ青森研修部会)



ユース部会

小さな勉強会 in 秋田

10月30日オンラインにて、「コロナ禍におけるソーシャルワーク～私たちに出るること～」をテーマに、北東北若手社会福祉士の交流会「小さな勉強会 in 秋田」が開催され、青森県から8名、全体では28名の参加がありました。秋田県内の病院、社協、地域包括支援センターに勤務する3名の会員から実践報告があり、グループワークとして、コロナ禍で苦労したこと、それぞれの所属先で工夫していたことについて話し合いました。

私は今年度入会したばかりで、県外の方とのオンライン研修ということで緊張しましたが、コロナ禍での他事業所との情報のやりとりや、患者様と家族等との面会の取り組みを共有できたことは、大きな経験となりました。

今後コロナ禍での取り組みについてもしっかり学んでいかなければと感じました。
(下北支部 田名部哲平)



子ども家庭福祉ソーシャルワーカー（仮称）は認定資格で決着

児童虐待の件数が増加する中、こども家庭福祉分野の資格の在り方が議論されてきました。厚生労働省が設置したワーキンググループでは、国家資格化も議論されてきましたが、2月3日の社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会において、国家資格ではなく認定資格とすることで決着しました。

新資格は、2年以上の実務経験がある社会福祉

士や精神保健福祉士が、100時間程度の指定研修を受講後、試験に合格すれば取得できます。両資格がない人でも取得できるよう経過措置が設けられます。また、子ども家庭福祉分野や保育分野で4年以上の実務経験があれば、指定研修とは別のソーシャルワークに関する研修も受講することで、受験資格を得られることになっています。

（編集部）

本会の会員は、様々な職場・職種で活動しています。どんな仕事や活動をして、どんなことを考えているのでしょうか？会員同士のネットワークを築くにも、お互いを知る必要がありますね。そこで今号から、会員の活動や人となりをお伝えする、連載企画を始めます。初回は編集部から、この方をご紹介します！！

新連載＊会員登場！

きたやま そうえ

第1回 北山倉栄さん（中南支部）

平川市社協で生活困窮者支援をされています。県士会では、生涯研修事業運営委員会で、基礎研修の講師の他、裏方として受講者との連絡役を担っています。講義や自作の資料はととてもわかりやすく、zoomの操作にも詳しいです。受講者とのやり取りはきめ細かく、書類作成も的確です。さすが社協マン！バレーボールのチームでコーチを務める、スポーツマンのお兄さんでもあります。

紹介者・晴山順一（東青支部・会報編集部）



オンラインの基礎研修で講師を務める北山さん

はじめまして(?) 過分なご紹介頂きました。中南支部の北山倉栄です。社会福祉士会に入会して来年が10年目になります。もうお兄さんと呼ばれる年齢でも無くなってきました…(笑)

社協に勤めこれまでは相談支援業務を中心に従事してきておりました。ソーシャルワークとは何か、実践と理論を結びつけることができているのか…、日々自問自答しつつ、業務に従事しております。正解はないとはわかりつつも不安や葛藤を抱えることも多々あります。とりあえずは、何事も受け止め、そしてフットワーク軽くどこにでも出向

くという意識を持ち、日々励んでいきたいと思えます。

会では生涯研修事業運営委員会に所属し、基礎研修の講師など貴重な体験をさせて頂いています。基礎研修の運営を通じて、私自身も勉強させていただき、少しでも実践に活かせるようにと考えています。

いつのまにか30代…、体力を落とさないように、そして体重を増やさないように自転車も始めました。心身ともに元気にこれからも頑張ります！！

次号では、北山さんが紹介して下さる会員さんが登場します。お楽しみに！

障害児者に対応できる歯科医師をお探しなら！

障害分野の会員の皆さん。障害児者はその特性から、歯医者さん探しが難しいですね。

青森県歯科医師会では、障害児者の受診機会の確保のため「障がい児者歯科支援ネットワーク」を運営しています。

運営室が、歯科治療に関する相談に応じます。後日あっせんされた歯科医と、治療日時を打ち合わせし、受診できます。

問合せ・申込電話：017-777-4870（青森県歯科医師会）

（月～金曜 9:00～12:00 / 13:00～17:00）

会員からの特ダネ!コーナー



★私のおススメ★

「ソーシャルワーカー最前線 現場主義」

（「現場主義」編集部編集、新科学出版社）

独立型社会福祉士に焦点を当て、地域で活動するソーシャルワーカーの活動の姿（現場）を紹介する業界専門雑誌です。独立型社会福祉士はもちろん、いわゆる「勤務型」であろうと自らソーシャルワーカーでありたいと奮闘する実践者への応援のための雑誌でもあります。

この雑誌を開くと、社会福祉士とは？ソーシャルワークとは？決まった制度の中で型にはまった仕事に終止していかないか？…少し立ち止まって考える良い機会となります。

私のように日々悶々と仕事をしているそこのあなた！ぜひ一緒にページをめくってみませんか？（笑）

（紹介者：三八支部 小泉紀之さん）



求む情報!!

- * 「私のおススメ！」では、福祉に関する小説・コミック・ドラマ・映画の他、書籍や雑誌についても取り上げます。
- * 「私の特ダネ！」は、特定の人には重要だけど、あまり知られてないニッチな社会資源を紹介します。地域限定でもOK。きっと他の会員に有益な、あなただけがご存じの社会資源があるはず。

これらのコーナーで情報を持ち寄り、互いの仕事や活動に役立てましょう。随時事務局にお寄せください。お待ちしております！（掲載時匿名可。編集部が情報を確認の上編集します）





東青支部 芳賀遙

三八支部 中田雅也

上十三支部 向中野紀子

下北支部 千葉篤彦

会報編集部員募集！

県内各地の情報を集め、会員に身近な紙面編集を行うため、各支部に編集部員を配置することとしました。

会報の企画・編集を通じて、日士会や福祉に関する行政等の動向を知ることができ、記事依頼や確認作業を通じて会員や多様な関係先に関わり、自分のネットワークを広げられるなど、様々な学びができます。

興味がある方は、各支部事務局を通じて本会事務局へご連絡ください！



あなたが読みたい記事は？～読者アンケートより～

会報58号には33名、59号には19名の回答をいただきました。その中で「今後掲載を希望する記事」についての回答は表のとおりでした。紙面づくりの参考にします。ありがとうございました。

今号についても、会員向け配信メールを通じてアンケートを行います。皆さまの回答へのご協力、よろしくお願ひします。

回答総数52件 (会報58号33件、59号19件)	回答数	割合 (%)
関係領域のソーシャルワーク関連の情報	34	66.6
上紀関係領域の青森県内における情報	27	62.5
委員会や支部の活動	27	53.0
行政（県・市町村）の福祉政策情報	23	45.2
会全体の動向	22	44.6
会員個人を紹介する記事	22	41.8
日本社会福祉士会の動向に関する情報	20	38.0
生涯研修制度に関する情報	19	36.1
MSWやPSWの団体に関する情報	12	31.0
その他	4	8.2

※回答数は会報58号・59号の合計、割合は加重平均

information

●会員数情報

令和4年2月28日現在

- * 会員数 653名
- * 入会率 30.11%（全国2位）
- * 人口10万人当たりの会員数 51.18人（全国11位）

●寄付金情報

令和3年9月～令和4年2月末

- * 件数 101件
- * 1,505,392円

御支援いただきありがとうございます。

●変更届提出のお願い

- * 氏名・住所・勤務先・所属都道府県社会福祉士会等に変更が生じましたら、会員情報を変更いたしますので、事務局へ変更届を提出してください。
- * 本会ホームページの会員専用ページ上の事務局「入退会届」をダウンロードして記入し、日本社会福祉士会又は、本会事務局までFAXをお願いいたしま

す。ご不明点等ございましたら事務局までお問い合わせください。

【編集後記】

耳より情報と彩りをお届けできたでしょうか。委員、会員の皆様のご協力のもとこの会報ができました。本当にありがとうございました。転倒と骨折で始まった私の令和4年ですが、慌てず落ち着いて一つずつこなしていくことの大切さを感じています。今回も無事に発行できて良かったです。皆様に感謝！

発行日 令和4年3月31日

発行人 鳴海春輝

編集 青森県社会福祉士会

中期計画活性化委員会

公益社団法人青森県社会福祉士会

〒030-0822

青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ内

TEL 017-723-2560 FAX 017-752-6877

http://www.aacsw.or.jp

E-mail aacsw@nifty.com